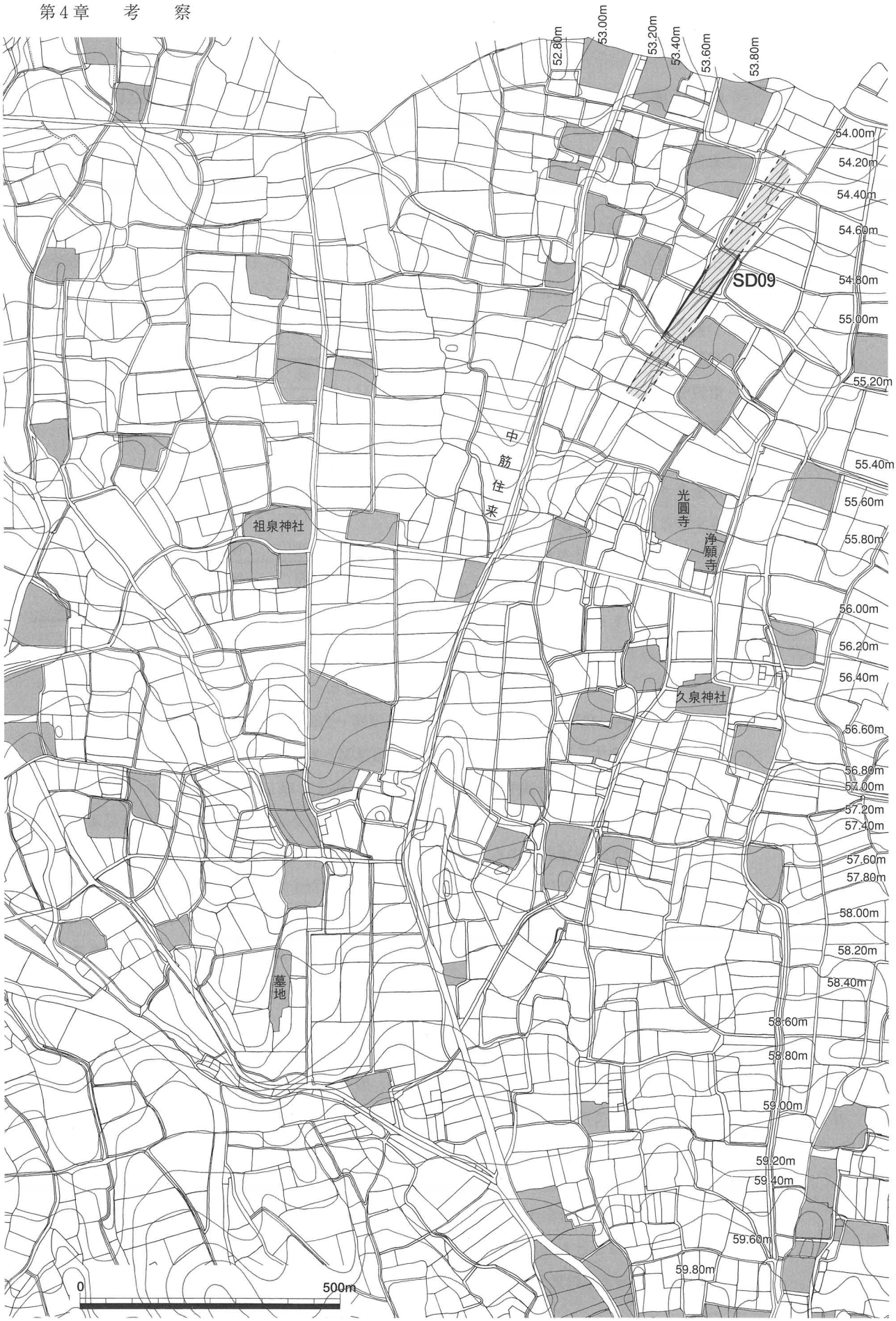


Fig. 48　従前地（太田）高低測量図　Scale=1／10,000

砺波市土地改良区の許可を得て作成

第５章　まとめ

最後に今回の発掘調査で得られた成果を総括し、そして次年度の調査展望について若干触れまとめとしたい。

【縄文時代中期後葉～後期前葉】

打製石斧

前年度に引き続いて遺物包含層である５層から打製石斧を主体的に検出した。SP265からは本遺跡で初めて遺構内から打製石斧を検出したが、埋納行為などに関わるものではなく、偶発的要素を含む。また、打製石斧の未製品を２点検出したこと、そして５層中に打製石斧の石材となりうる礫群が集中的にみられたことから、遺跡内における打製石斧製作の可能性が考えら

石器組成

れる。石器の組成としては、磨製石斧２点が加わった。遺構では土坑、ピットを中心とし、竪穴住居などの居住に関する遺構は発見されなかったが、焼土を含む土坑や炭化物を多含するピット、破砕礫を含むピットが存在した。総じて一般的な縄文集落とは様相が異なり、打製石斧が主体的に出土するという特徴を持つことが改めて裏付けられたことになる。次年度調査においても同様の傾向をもつことが予想される。

【古代－奈良・平安時代】

大　溝

年代は明らかでないが、上層遺構として大規模な溝（SD09）を検出した。使用年代は正確に把握できないが、上限は中世前期、下限は縄文時代中期～後期に位置付けることができる。出土遺物の年代は、８世紀後半～９世紀前半と12世紀後半～14世紀前半の大きく２時期あるが、溝機能時との同時性は認め難く、流れ込みの可能性も否定できない。埋土の堆積状況から、開削後、数度の洪水により埋没し、規模を縮小しながら再掘削を繰り返す状況が看取された。SD03が平行し、真北から約45度東に振って走行している。前年度調査も含め、溝状の遺構は総じて南西から北東方向に流れており、旧地形の復元作業を通して地形状況を反映したものと

東大寺領荘園

理解できる。大溝の計画性を積極的に評価すれば、下流にあたる地域に東大寺領荘園やその荘村である伊加留伎村の比定地があることから、古代開発に伴う溝と考えることもできる。

上層遺構では、他に掘立柱建物１棟、土坑、ピットなどを検出した。

春が訪れると、田植え前に扇状地の至るところで人々が集結し「江浚（えぎら）い」という作業が行われる。一年間で水路に溜まった泥や土砂を浚い上げ、いよいよ始まる農繁期に備えるものである。集落内の住民が挙って参加し、春の風物詩とも言える光景である。今回検出された大溝（SD09）は、開削後に度重なる洪水で埋没し、その度に徐々に規模を縮小しつつも再掘削を繰り返す状況を復元することができた。この大溝を使用した人々が自然災害に負けず、溝の機能を維持し続けたことと、春の「江浚い」作業を思わず重ね合わせた。そのSD09の機能や性格を明らかにすることが本遺跡の解明には不可欠である。次年度調査では、繰り越した問題点を解決することに重点を置くとともにさらなる成果を期待し、結語としたい。　（野原）

【参考文献】

安念幹倫　1991　「七　城跡群の遺物」
『富山県指定史跡　増山城跡調査報告書』　砺波市教育委員会・砺波郷土資料館

池野正男　1987　「射水丘陵における８世紀後半の須恵器窯跡」　『大境』第11号　富山考古学会

池野正男　1997　「越中における９世紀の土器様相」『北陸古代土器研究第６号』北陸古代土器研究会

伊野近富　1987　「「かわらけ」考」『京都府埋蔵文化財論集』第１集　（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター

伊野近富　1995　「土師器皿」『概説　中世の土器・陶磁器』　中世土器研究会

今村啓爾　1989　「群集貯蔵穴と打製石斧」『考古学と民俗学』六興出版

魚津市教育委員会　1997　『富山県魚津市山下Ⅱ遺跡発掘調査報告書』

魚津市教育委員会　2000　『富山県魚津市吉野遺跡発掘調査報告書』

内田亜紀子　2000　「越中婦負郡の古代土師器煮炊具－婦中町Ⅰ・Ⅴ・Ⅵ遺跡の竪穴住居出土資料を中心に－」『富山県考古学研究　紀要第３号』（財）富山県文化振興財団

越前慎子　1996　「第Ⅳ章考察　１梅原胡摩堂遺跡出土中世土師器皿の編年」『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告
（遺物編）―東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅱ―』（財）富山県文化振興財団

小川英文　2000　「第９章　狩猟採集社会と農耕社会の交流：相互関係の視角」
『現代の考古学５　交流の考古学』　小川英文編　朝倉書店

岡本恭一　1991　「第６章石製品」『粟田遺跡発掘調査報告書』（社）石川県埋蔵文化財保存協会

神嶋利夫　1990　「砺波市宮村とその周辺の地形地質」『砺波散村地域研究所研究紀要　第８号』

河合久則　1990　「二、徳大寺家領般若野荘について」
『砺波市史資料編１考古古代・中世』砺波市史編纂委員会編

川口武彦　2000　「打製石斧の実験考古学的研究―縄文時代中期における土堀り具の使用時間―」
『古代文化』VOL. 52　（財）古代学協会

川口武彦　1997　「縄文時代中期における石器製作技術の再検討―植物採集･加工石器を中心として―」
『筑波大学先史学・考古学研究第８号』筑波大学歴史・人類学系

経済企画庁　1970　『土地分類基本調査（石動）』

小杉　康　2001　「第２章　縄文時代の集団と社会組織」
『現代の考古学６　村落と社会の考古学』　高橋龍三郎編　朝倉書店

古代の土器研究会　2001　『古代の土器研究―須恵器の製作技法とその転換―』

小林公明　1991　「新石器的石器の製作技術―扁平円礫の割り方をめぐって―」『季刊考古学』第35号
雄山閣

小松市教育委員会　1991　『戸津古窯跡群Ⅰ』

小山修三　2000　「採集と栽培のはざま」『古代史の論点１　環境と食料生産』　小学館

佐伯安一　1979　「礪波市」　『角川日本地名大辞典　16　富山県』　角川書店

酒井重洋　1998　「中世土師器の分類について」『富山考古学研究』創刊号　(財)富山県文化振興財団

榊原滋高　2001　「柱穴の調査方法を考える」『掘立と竪穴』

塩田明弘　2002　「越中（富山県）の様相」　『中世北陸の城館と寺院』北陸中世考古学研究会

鈴木次郎　1983　「打製石斧」　『縄文文化の研究７』雄山閣

鈴木道之助　1991　『石器入門事典縄文』柏書房
梅檀山村史刊行会　1976　『梅檀山村史』
高岡　徹　1990　「増山城と中世の城館」『砺波市史資料編１　考古、古代・中世』　砺波市史編纂委員会
高岡市教育委員会　2001　『石塚遺跡・東木津遺跡発掘調査報告』
田嶋明人　1986　「Ⅳ考察－漆町遺跡出土土器の編年考察－３　９世紀後半から13世紀にかけての土器の変遷」『漆町遺跡Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター
田嶋明人　1988　「古代土器編年軸の設定」『シンポジュウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編
石川県考古学会・北陸古代土器研究会
出越茂和　1997　「北陸古代後半における碗・皿食器（後）」『北陸における10・11世紀の土器様相』
北陸古代土器研究会
砺波市教育委員会　1978　『富山県砺波市梅檀野遺跡群予備調査概要』
砺波市教育委員会　1990　『秋元遺跡発掘調査報告書』
砺波市教育委員会　1999　『高道向島遺跡』
砺波市教育委員会　2003　『増山城跡発掘調査報告』（林道増山城跡線拡幅工事に伴う発掘調査報告書）
砺波市教育委員会　2004　『増山裏亀山遺跡発掘調査報告』（林道増山城跡線拡幅工事に伴う発掘調査報告書）
砺波市教育委員会　2004　『久泉遺跡発掘調査報告Ⅰ』
砺波市史編纂委員会他　1962　『砺波市福山〈徳万赤坂〉須恵器窯発掘報告』
外山秀一　1997　「プラント・オパールからみた砺波平野の土地利用と黒土層の特性」
『砺波散村地域研究所研究紀要』第14号　砺波散村地域研究所
富山県　1992　『10万分の１富山県地質図説明書』
富山県教育委員会　1977　『富山県砺波市厳照寺遺跡緊急発掘調査概要』
富山県教育委員会　1978　『富山県砺波市宮森新北島Ⅰ遺跡緊急発掘調査概要』
㈶富山県文化振興財団　1996　『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺構編）』・『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』
㈶富山県文化振興財団　2002　『清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡発掘調査報告』
㈶富山県文化振興財団　2002　『石名田木舟遺跡発掘調査報告』
㈶富山県文化振興財団　2003　『江尻遺跡・蓑島遺跡発掘調査報告』
㈶富山県文化振興財団　2003　『中名Ⅰ・Ⅴ遺跡発掘調査報告』
富山市教育委員会　2000　『富山市上新保遺跡発掘調査報告』
富山地学会編　1986　『富山県の地形・地質』
中川道子　1998　「五社遺跡古代後期の土師器の編年について」『五社遺跡発掘調査報告書』
㈶富山県文化振興財団
西井龍儀　1985　「砺波平野進出の足跡―周辺地域の考古資料から―」
『砺波散村地域研究所研究紀要』第２号　砺波散村地域研究所
西井龍儀　1990　「第１章　旧石器」　『砺波市史資料編１　考古、古代・中世』　砺波市史編纂委員会編
西井龍儀　1992　「砺波市久泉　光圓寺古墓の調査」　『砺波散村地域研究所研究紀要』第10号
西井龍儀　1994　「利波郡における分窯とその背景」　『北陸古代土器研究』第４号　北陸古代土器研究会
西田正規　1989　『UP 考古学選書13　縄文の生態史観』
林　謙作　2001　「縄文時代の集落と領域」『縄文社会の考古学』同成社

福岡町教育委員会　2002　『木舟城跡発掘調査報告』
藤井昭二　1967　『50000分の１表層地質図　砺波』富山県
藤尾慎一郎　1993　「生業からみた縄文から弥生」『国立歴史民俗博物館研究報告』第48集
藤尾慎一郎　2003　「第４章縄文時代の雑穀・穀物栽培―縄文後・晩期稲作の実態―」『弥生変革期の考古学』同成社
藤澤良祐　1997　「中世瀬戸窯の動態」『(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第５輯』
麻柄一志　1984　「縄文時代の石器組成と植生―いわゆる「ナラ林文化論」へのアプローチとして―」『大境』第８号　富山考古学会
麻柄一志　2003　「打製石斧が使われた場所」『考古学に学ぶⅡ』(同志社大学考古学シリーズⅧ)
宮田進一　1997　「第２節　越中国における土師器の編年」『中・近世の北陸』北陸中世土器研究会
宮本一夫　2000　「縄文農耕と縄文社会」　『古代史の論点１　環境と食料生産』　小学館
森田　勉　1981　「鎌倉出土の中国陶磁器に関して」『貿易陶磁研究 NO. １』日本貿易陶磁研究会
森田　勉　1995　「大宰府出土の輸入中国陶磁器について－形式分類と編年を中心として」『大宰府陶磁器研究－森田勉氏遺稿集－』森田勉氏遺稿集・追悼集刊行会
山田康弘　1999　「第５章　縄文から弥生へ―動植物の管理と食糧生産―」『現代の考古学３食料生産社会の考古学』常木晃編　朝倉書店
山本　薫　1989　「縄文時代の石器製作における石材の利用について」『筑波大学先史学・考古学研究第１号』筑波大学歴史・人類学系
山本直人　1985　「石川県における打製石斧について」『石川考古学研究会々誌』第28号　石川考古学研究会
山本直人　1990　「縄文時代地域社会論に関する一試論―手取川水系を中心として―」『古代文化』VOL. 42, 12
山本直人　1995　「縄文時代におけるクズ食糧化の基礎的研究―宝達葛を中心として―」『石川考古学研究会々誌』第38号　石川考古学研究会
山本直人　1996　「縄文時代における野生根茎類食糧化の民俗考古学的研究―クズとワラビを中心として―」『石川考古学研究会々誌』第39号　石川考古学研究会
山本正敏　1996　「２．縄文時代の石器」『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）―東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅱ―』(財)富山県文化振興財団
山本正敏　2001　「富山県における縄文時代集落の諸相」『列島における縄文社会集落の諸様相』縄文時代文化研究会
吉岡康暢　1971　「石川県下野遺跡の研究」『考古学雑誌』第56巻第４号日本考古学協会
吉岡康暢　1994　「第２章　珠洲陶器の編年的研究」『中世須恵器の研究』吉川弘文館
渡辺　誠　1975　「食料獲得」『考古学ジャーナル』100

写真図版

PL. 1　空中写真（1）

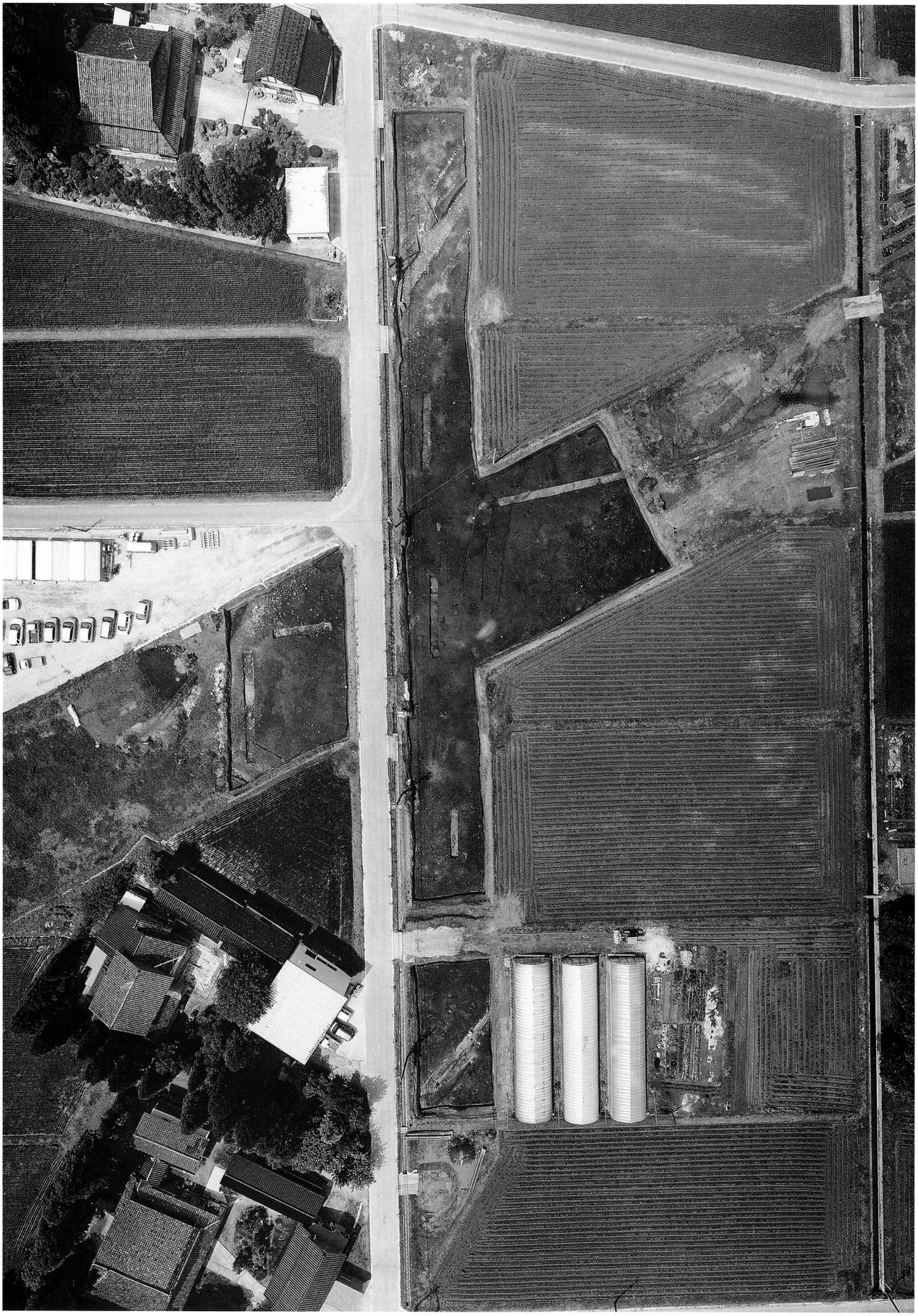
空中写真（昭和38年（1963）、国土地理院撮影）

この写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものである。（承認番号）平16北複、第101号

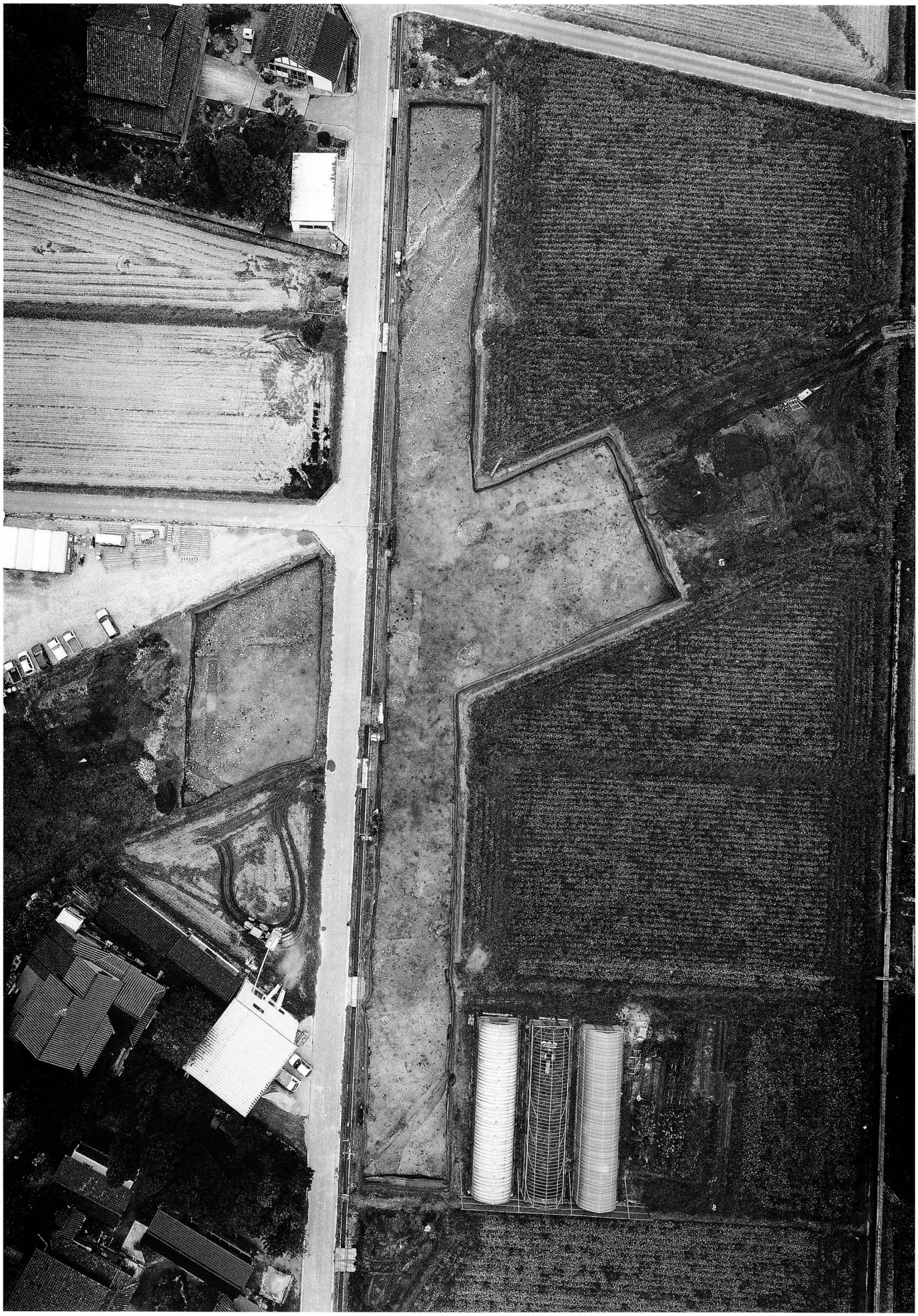
空中写真（平成13年（2001）、国土地理院撮影）

この写真は、国土地理院長の承認を得て、同院撮影の空中写真を複製したものである。（承認番号）平16北複、第101号

PL. 3　上層空中写真

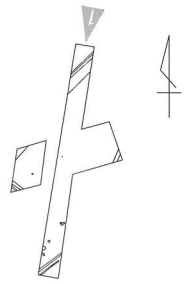


平成16年 6 月30日撮影

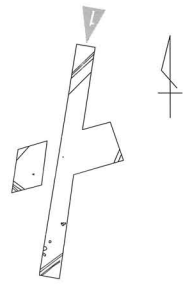


平成16年 9 月22日撮影

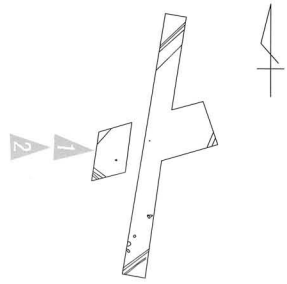
調査区（古代ー中世）全景



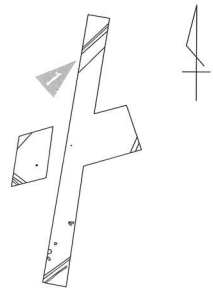
調査区（縄文時代中期ー後期）全景



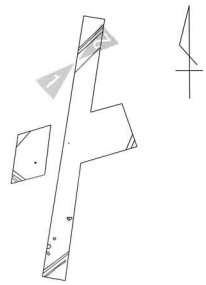
1．西側調査区（古代ー中世）全景（上層）　2．西側調査区（縄文時代中期ー後期）全景（下層）



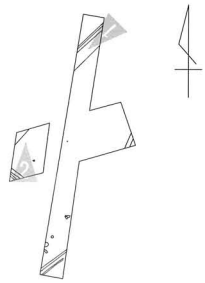
SD09全景



1．SD09東側壁面　2．SD09西側壁面

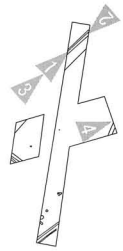


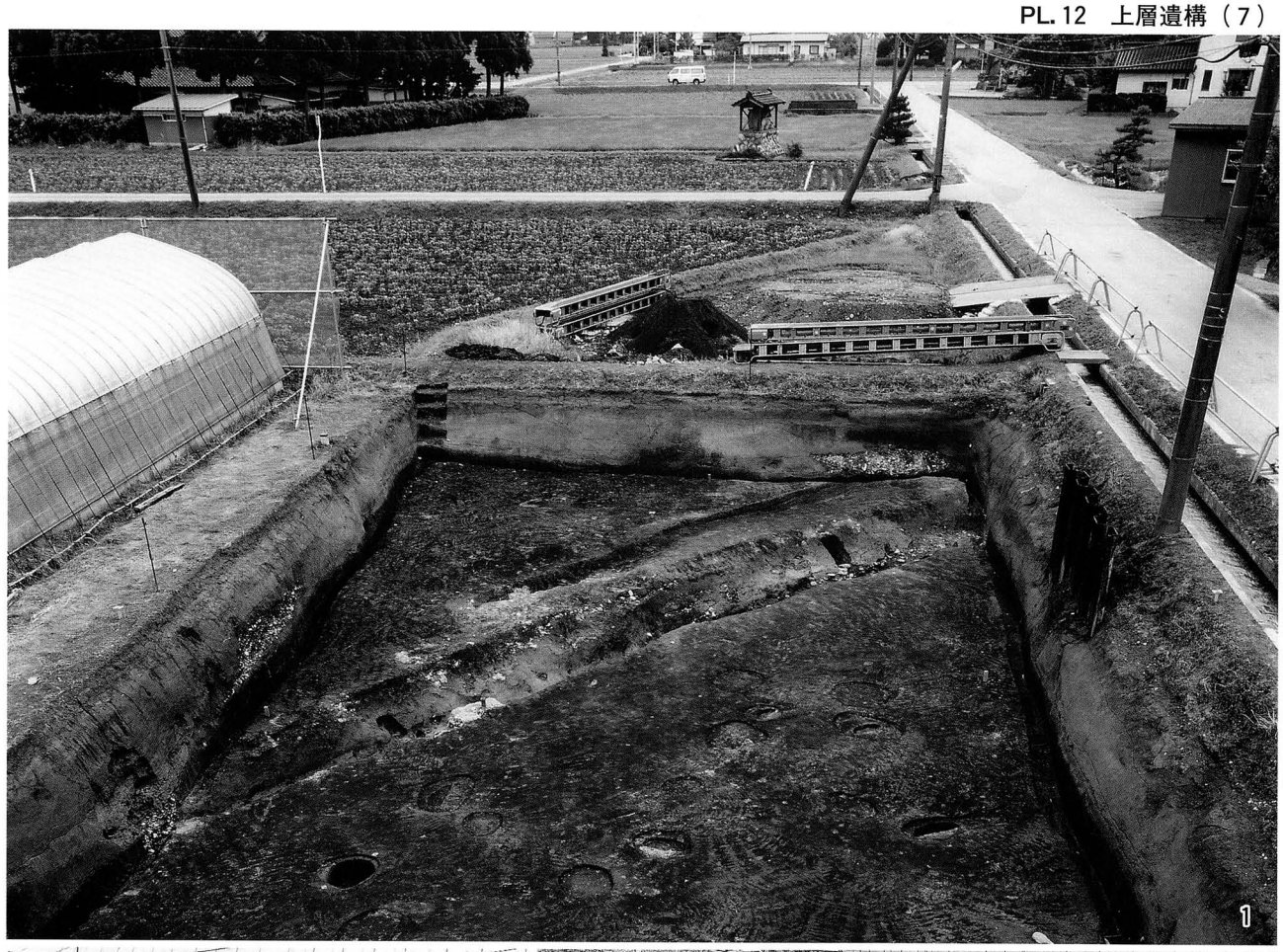
1．SD09中央断面　　2．SD09北側壁面



PL. 11　上層遺構（6）

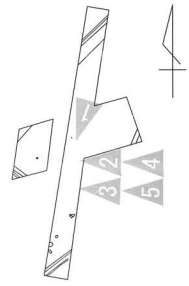
1．SD03全景　　2．SD03西側壁面　　3．SD03断面　　4．SD212東側壁面



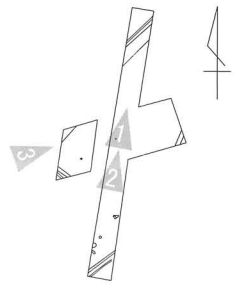


1．SD170全景　2．SD170東側壁面　3．SD170断面　4．SD170完掘状況

1．掘立柱建物跡（SB01）　2．SP174断面　3．SP180断面　4．SP175完掘　5．SP185完掘

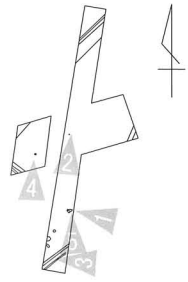


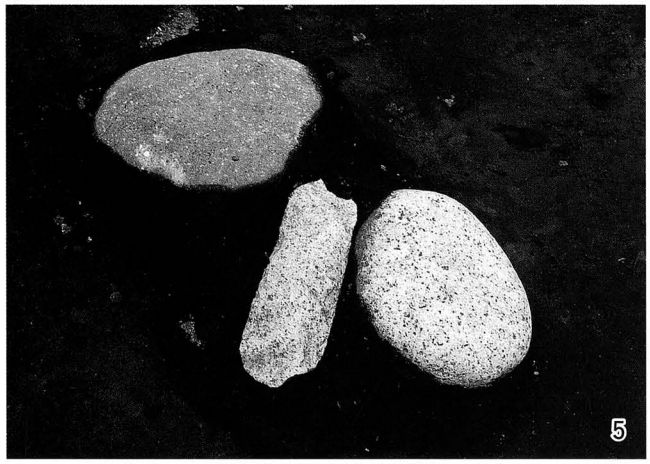
1．礫群出土状況（北側調査区）　2．礫群出土状況（北側調査区）　3．礫群出土状況（西側調査区）



PL. 15　下層遺構（3）

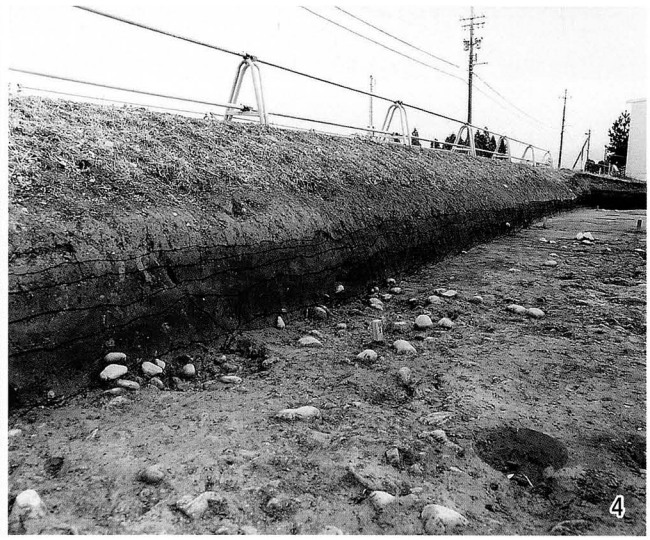
1．南側調査区遺構検出状況
2．SP265・・・欠損した打斧が2本（Fig. 29）出土
3．SK425・・・焼土・立石が出土
4．SP353・・・縄文土器出土状況（Fig. 27）
5．SK474・・・磨製石斧出土（Fig. 29）



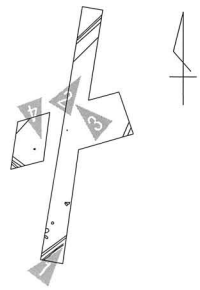


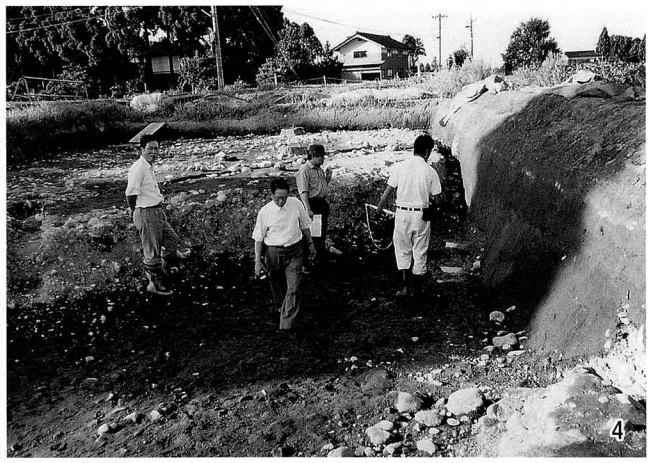
1．No. 46（未製品　Fig. 29）
2．No. 47（未製品　Fig. 29）
3．No. 56（Ⅰ類（撥型）Fig. 33）
4．No. 62（Ⅰ類（短冊型）Fig. 32）
5．No. 67（Ⅰ類（短冊型）Fig. 32）
6．No. 74（Ⅱa類（撥型）Fig. 33）
7．No. 75（Ⅱa類（撥型）Fig. 34）
8．No. 92（Ⅱb類（撥型）Fig. 36）

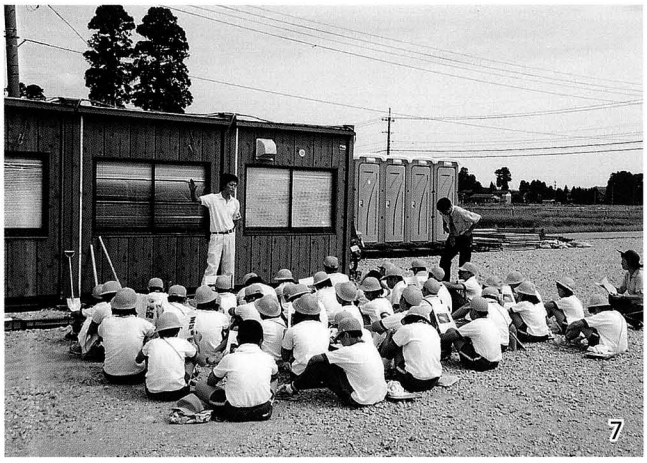
PL. 17　調査区土層断面



1．南側調査区東壁　　2．北側調査区東壁　　3．北側調査区西壁　　4．西側調査区東壁

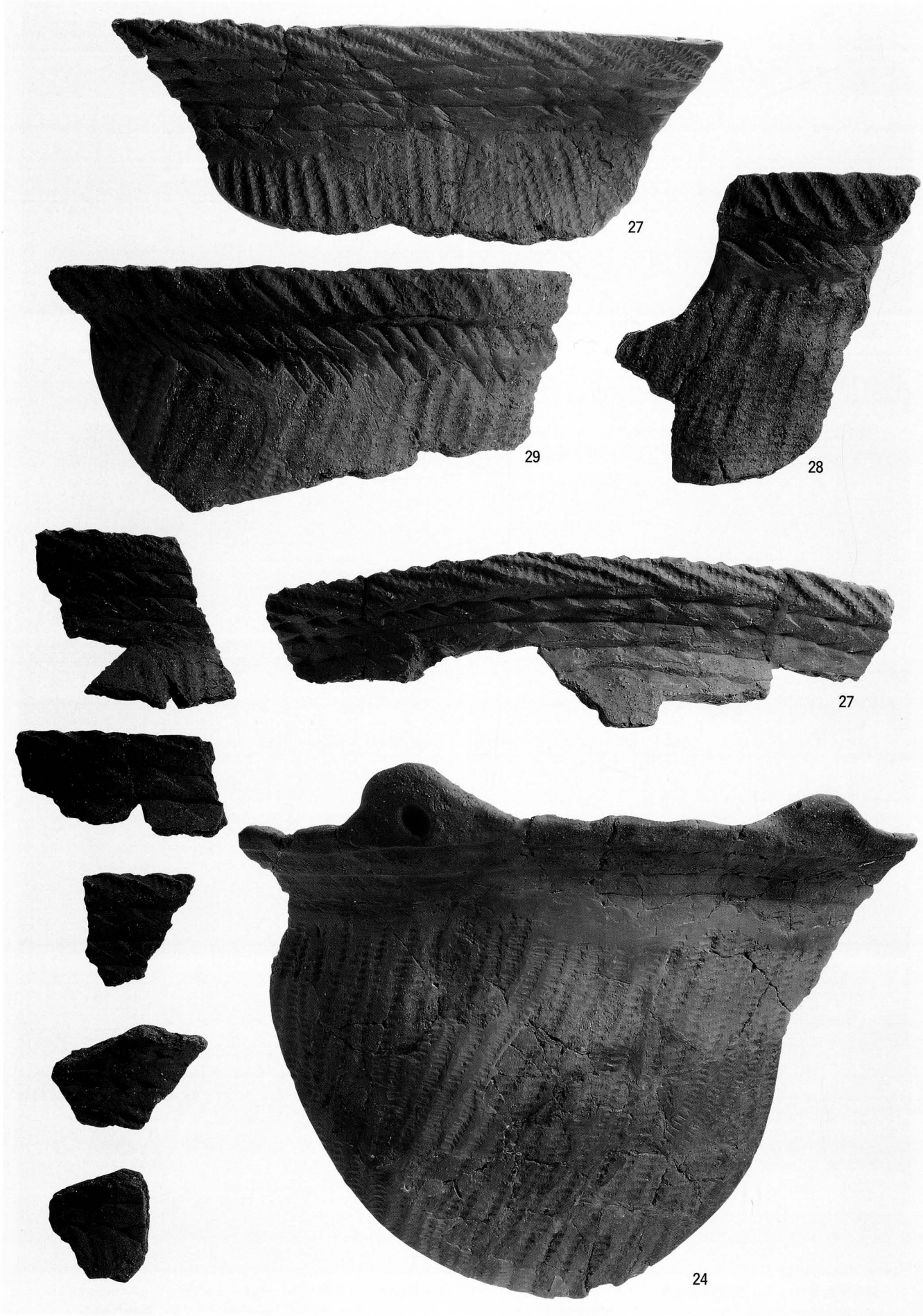




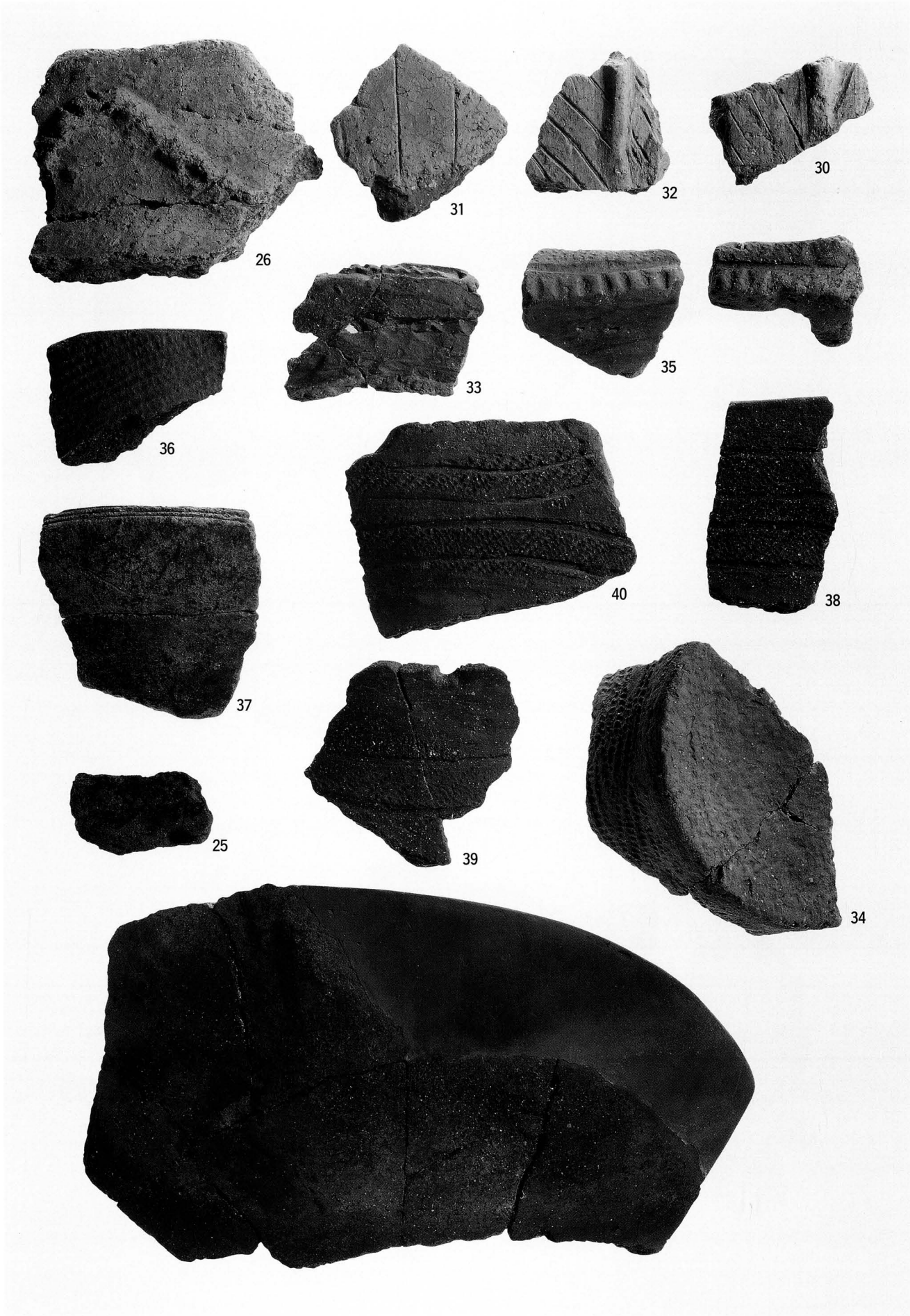


1．調査前風景　2．遺構記録風景　3．遺構調査風景　4．金田章裕先生（京都大学）来跡（8／19）
5．砺波市教育委員視察（9／1）　6．現地説明会（9／18）　7．庄南小学校説明会（9／21）　8．調査参加者

PL. 19　遺構・遺物包含層出土遺物（1）　縄文土器



SP360（24）



SP245（25）、SP354（26）

1

2

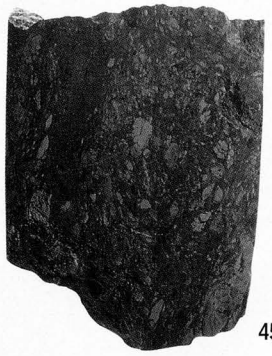
1．遺物包含層（41）　　2．SP417

1

2

1．遺物包含層　　2．SK425

PL. 23　打製石斧・磨製石斧集合写真


45

43

44

42

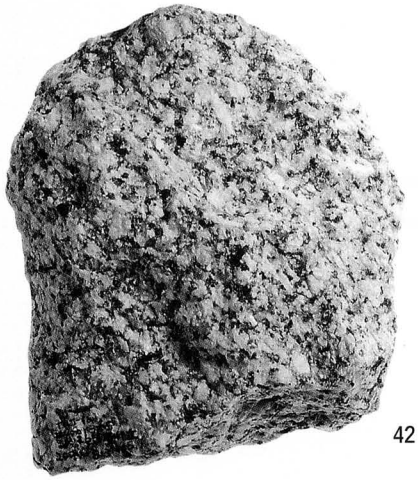
46

47

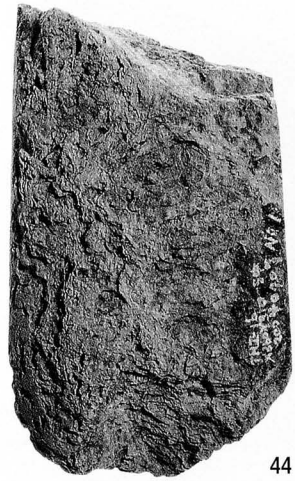
PL. 25　遺構・遺物包含層出土遺物（6）　打製石斧・磨製石斧・未製品

43

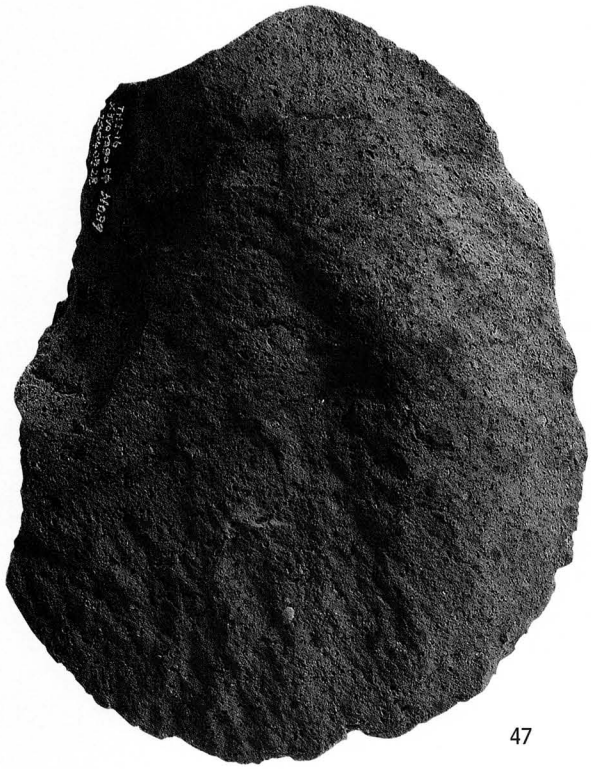
45



42



44

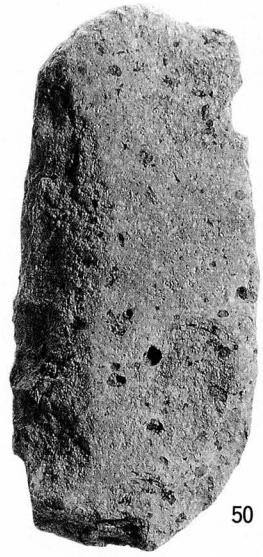


47

46

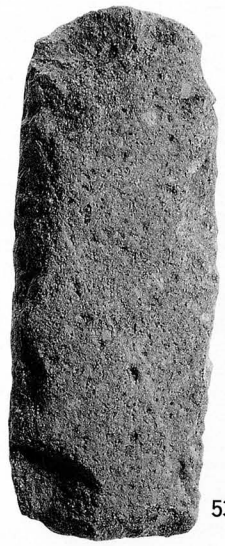
48

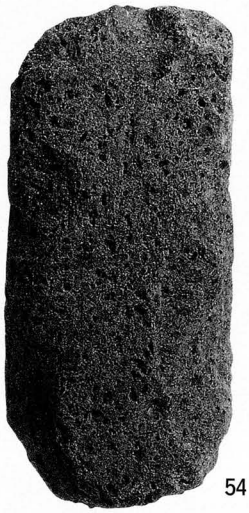
49


50

51

52

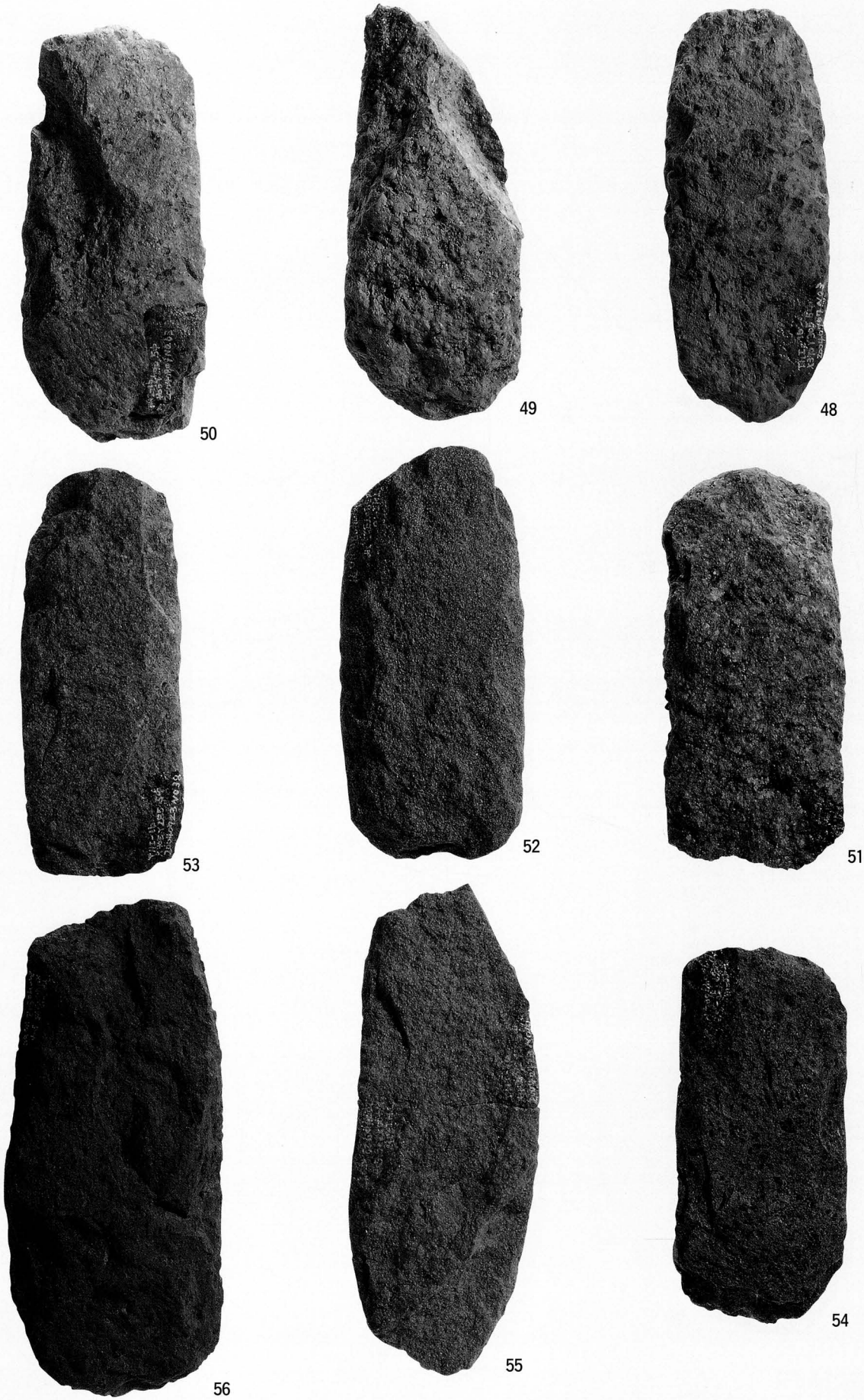

53


54

55

56

PL. 27　遺物包含層出土遺物（2）　打製石斧（Ⅰ類）

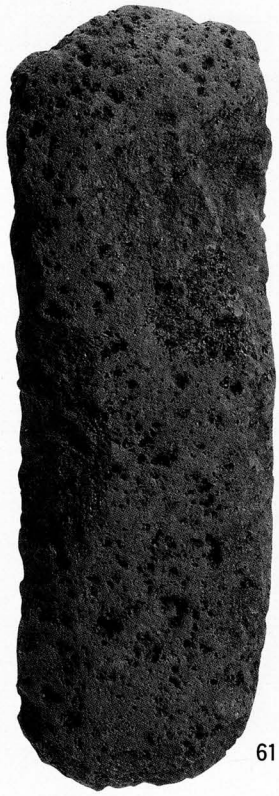


57

58

59

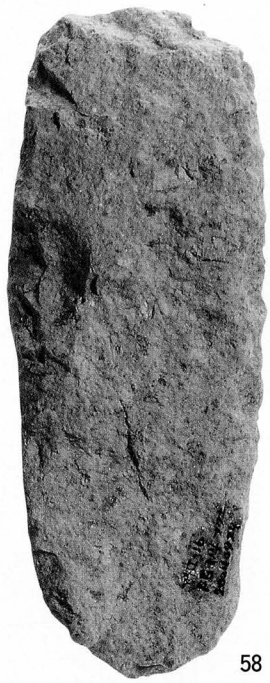
60


61

62

PL. 29　遺物包含層出土遺物（４）　打製石斧（Ⅰ類）

59


58

57

62

61

60